



やさしく学ぶ 看護師のための 漢方薬理学

加味帰脾湯

監修：柳田俊彦先生 宮崎大学医学部看護学科 学科長／
統合臨床看護科学講座臨床薬理学 教授

漢方薬が処方される機会は増えていますが、「どう効くのか」を説明するのは意外と難しいもの。
本記事では、「効き方のしくみ」という視点から漢方薬をやさしく解説します。

▶ 加味帰脾湯の特徴

加味帰脾湯は14の生薬で構成されている漢方薬で、産後うつに伴う精神不安などに処方されています。近年の研究ではオキシトシンに作用することが示唆されています。オキシトシンはストレスによって分泌が低下するため、ストレス社会の日本に貢献できる漢方薬です。

▶ 効能又は効果

虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症：貧血、不眠症、精神不安、神経症

▶ 用法及び用量

通常、成人 1 日7.5gを 2～3 回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

▶ 構成生薬

本品7.5g中、右記の割合の混合生薬の乾燥エキス5.0gを含有する。

日局オウギ(黄耆)	3.0g
日局サイコ(柴胡)	3.0g
日局サンソウニン(酸棗仁)	3.0g
日局ソウジュツ(蒼朮)	3.0g
日局ニンジン(人參)	3.0g
日局ブクリョウ(茯苓)	3.0g
日局リュウガンニク(竜眼肉)	3.0g

日局オンジ(遠志)	2.0g
日局サンシシ(山梔子)	2.0g
日局タイソウ(大棗)	2.0g
日局トウキ(当歸)	2.0g
日局カンゾウ(甘草)	1.0g
日局ショウキョウ(生姜)	1.0g
日局モッコウ(木香)	1.0g

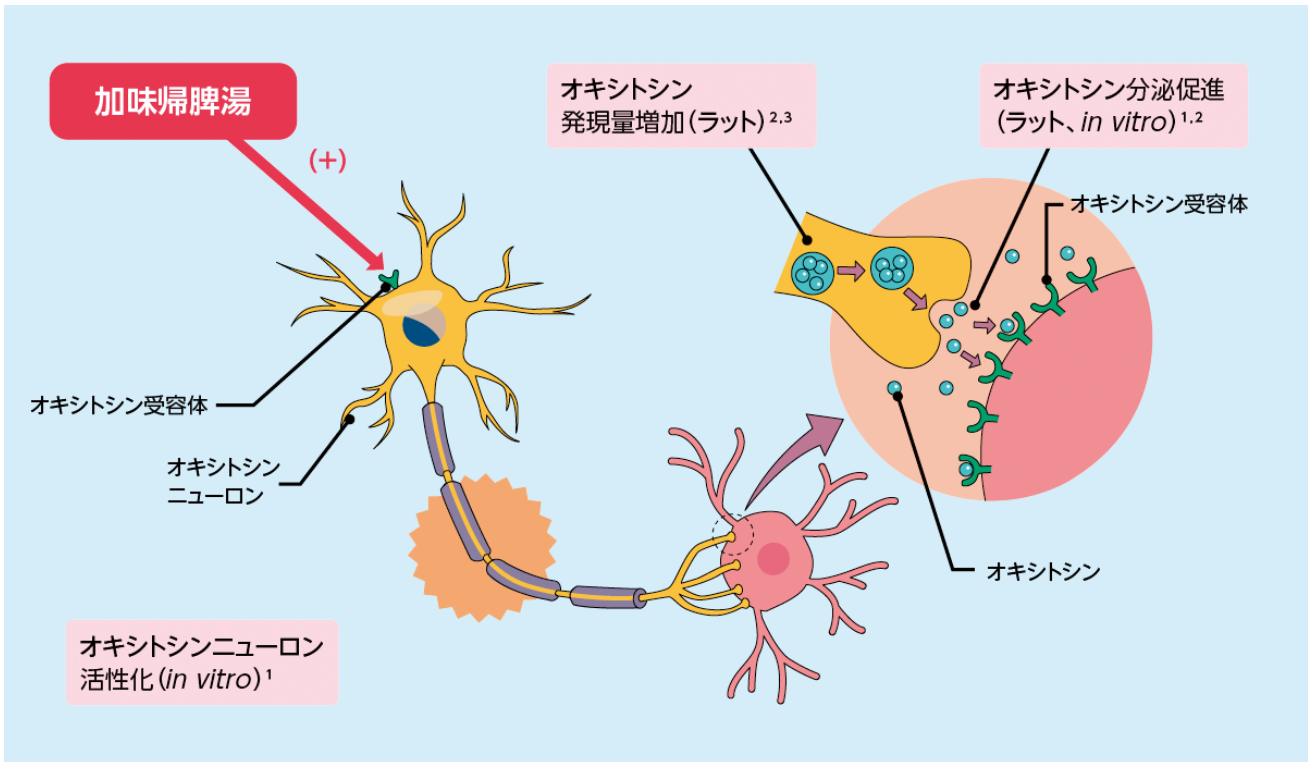
▶ 味

僅かに甘味を帯びて特異である

▶ 薬理作用

加味帰脾湯は、図のようにオキシトシンを介した作用が報告されています。

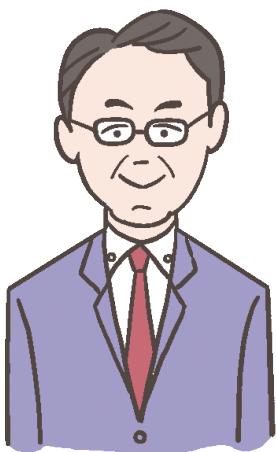
図 加味帰脾湯の薬理作用(仮説)



- **オキシトシンニューロン活性化(*in vitro*)**：オキシトシンを産生・分泌するニューロン(神経細胞)の働きを活性化させることで、オキシトシン産生量が増加します。
- **オキシトシン発現量増加(ラット)**：オキシトシンの生成そのものを増やすことで、体内でのオキシトシンの供給量が増加します。
- **オキシトシン分泌促進(ラット、*in vitro*)**：産生されたオキシトシンが、血液中や脳内へ放出されるのを促し、実際に作用すべき部位でのオキシトシン量を増加させます。

▶ 重大な副作用

1. 偽アルドステロン症
2. ミオパチー
3. 腸間膜静脈硬化症



柳田先生の一言メモ

オキシトシンとは…？

脳の下垂体後葉から分泌されるホルモンで、愛情ホルモンや幸せホルモンとも呼ばれています。マッサージをすることでオキシトシン量が増加することも示唆されており、看護師の皆さんがケアとして行っているタッチングも、オキシトシンの分泌に寄与しているかもしれませんね。

[文献]
1.Maejima, Y. et al. *J Food Drug Anal.* 2021, 29(4), p.653-675.
2.Tsukada, M. et al. *J Ethnopharmacol.* 2021, 276, 14218.
3.Maruyama, T. et al. *Frontiers in Pharmacology.* 2022, 13, 961135.